



【特集】
新春を迎えて

第25回 JA北海道大会開催
共に創る北海道農業とJAの新時代
明日を担う
農産加工あれこれ
やはり売れ筋は“粗挽き”です

頌春

特別企画
**パワーアップ
キャンペーン**

取扱期間
平成18年 11月20日
平成19年 11月30日

どちらを
選びますか?
2つの

3年
もの

定期貯金

5年
もの

0.8%

1.1%

- 対象商品 自動継続式定期貯金
- 対象者 取扱期間中に新規にご契約いただいた個人および法人の方に限りです
- 適用金利 3年もの0.8% 5年もの1.1%(50万円以上)
- 募集額 30億円

詳しくはお近くのJAあさひかわ金融支所でお問い合わせ下さい。

新春を迎えて

代表理事組合長 山本 隆一



明

けましておめでとございませす。平成19年の新春を皆様と共に迎えられますことを心から喜び申し上げます。

農業を取り巻く環境は、内外ともにその厳しさをいっそう強めています。WTO（世界貿易機構）交渉は、昨年7月のG6閣僚会議以後、交渉が凍結されており、先行き不透明のままに時間だけが経過しています。

また、日豪FTA（自由貿易協定）交渉につきましても、米をはじめ、牛乳や小麦などの重要品目の例外措置を求め系統組織一丸となり運動を展開しているところでありますが先行きはまったく予断を許しません。

こうした不透明かつ厳しい農業情勢の中で、昨年は、第2次農業・農協中期3カ年計画の2年次の基本計画を軸に、今年度から導入される品目横断的経営所得安定対策について周知徹底と担い手の拡大、経営体質強化の確立に向けて努めてまいりました。

また重要テーマであるクリーン米

の生産にも、全生産者と共に安全・安心な「JAあさひかわ米」づくりに精力的に取り組まれました。昨年は、天候の影響が心配されましたが、最終的には作況上川111と平年を上回り、当JAでは25万1千俵の集荷と上川ライスターミナルの利用も9万俵余りとなり実需者からの産地指定率も高まっております。

市場へのJAあさひかわ農産物の販売推進と一昨年より取り組んでいる「クッキングフェスタ」の開催、さらに、昨年7月にオープンしたJAあさひかわ農産物直売所「あさがお」では生産者皆さんのご協力とご努力をいただき地元農産物の安全・安心・新鮮をアピール、併設の江丹別そば処「穂の香」でのそば打ち講習などの新たな取り組みによって、地元消費者や市場、量販店などから高い評価をいただき、今後につなげることができたと思います。

購買事業につきましては、老朽化

に伴う豊岡給油所と流通施設などの廃止、また江丹別給油所の新築に合わせAコープ江丹別店を改築しオープンさせていただき地域の利便性を図っております。

信用、共済事業につきましては、未だ景気の低迷が長引き、依然と厳しい状況にありますが、利用者のJAバンクへの信頼感や安心感を高め、貯金・貸付の伸長拡大に努めております。

共済は、渉外体制の整備と、業務の専門化による推進強化を図るとともに、役員一丸となって計画達成に向けて推進をしております。

合併から早くも5年が経過し、農業・農協を取り巻く環境が急展開を続ける中で、農業・農協経営の安定とコスト低減を目指し、組合員皆様のご理解とご協力をいただきながら事業展開を図ってまいりましたが、年末に開催させていただきました懇談会におきましては、平成18年度収支決算予測と平成19年度に向けた部

謹

んで新年のお慶びを申し上げます。

まず、昨年の北海道農業は、春先の天候不順で、収穫期の作柄を心配しておりましたが、その後の好天により地域差はあるものの全体的には総じて良好に推移しました。特に米の作況指数は105と昨年に引き続き豊作となりました。しかし、

10月以降本道を襲った低気圧、竜巻・突風などにより一部地域において農地や施設に大きな被害が発生いたしました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて農業・農村・JAを取り巻く環境は、WTO農業交渉が先送りとなっている中で、政府は日豪FTA・EPA交渉に入る方針を固めました。日豪交渉では、本道の主要農畜産物の多くが競合しており、仮に関税が撤廃されることになれば、本道農業に壊滅的な打撃を与えることは明白であり、予断をゆるさない状況にあります。

JAグループ北海道といたしまし

ては、今後とも米麦、牛肉、乳製品、砂糖など重要品目の関税撤廃の例外化の確保にむけて引き続き経済・商工・消費者団体など関係団体との連携を強化し、粘り強い運動を継続してまいります。

次に、品目横断的所得安定対策につきましては、すでに小麦で加入申請が進んでおり、本年からの移行に支障が生じないよう万全を期してまいりたいと存じます。また、新エネルギーを目標とするバイオエタノールにつきましては、19年度から実証プラントをホクレン清水工場内に建設を開始し、21年度操業をめざしてまいります。

また昨年は規制改革・民間開放推進会議による「信用・共済事業の分離・分割」「独占禁止法の適用除外」などJA組織の存続にかかわる問題が提起されております。引き続きJAに対する道民の理解を深める広報対策を強めてまいりたいと存じます。

新春にあたり

北海道農業協同組合中央会会長 宮田 勇



さて昨年は3年に一度開催される

「第25回JA北海道大会」が開催されました。向こう3カ年における北海道農業・JAが取り組む指針であり、北海道農業が日本の食料基地としてさらにステップアップを図るため、食料自給率の向上と消費者への安全・良品質な農畜産物の供給を目指すとともに、JA経営では自己責任に基づく経営の健全化を図り、JA合併を中心に強靱な経営基盤を確立することが必要であります。

これまでの社会はひたすら物質的豊かさを追い求めてきました。その結果、経済効率、企業優先の社会となり資源や環境の破壊をもたらしてきました。しかし環境や資源、安全などが重視されるようになり農業、JAに対する見方も随分変わってきました。競争から共生の社会へ時代は変化しています。いまこそ「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念を全員が意識し「共生の世紀づくり」にまい

門別方針及び方策については経済部門、購買部門の統合や給油所のセルフ化などご説明とご提案をさせていただき事業全般について、組合員の皆様から賜りましたご意見、ご要望等を今後の事業運営に反映させていただきます。期待と信頼に応えられるよう、役員一丸となって邁進してまいりますので、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に組合員並びにご家族皆様方のご健勝と、本年も豊かな出来秋を迎えることができますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。

進しようではありませんか。JAグループ北海道は組合員、JA、地域住民の期待と信頼に応えるためこれからも全力で取り組んでまいります。最後に、本年は災害がなく豊稔の出来秋を迎えることができますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。

新年挨拶

青年部部長 大西 勇治

勇治



明 けましておめでとうございませう。日頃より、当青年部活動に對しまして組合員皆様の多大なご協力とご支援を頂き、部員69名を代表して心より感謝申し上げます。

昨年は、春先の天候不順にもかかわらず7月以降は好天に恵まれ、台風等の大きな被害もなく、農作物全般にわたり豊作の年となりました。稲作においては北海道産米の評価が上がり、価格・消費量ともに上昇傾向にあり本年の生産枠も増加が期待されるとうです。

一方で、大豆等の畑作物は近年急激に作付けが増えたことにより、生産過剰となり価格に大きな打撃を与え、施設野菜等も価格低迷に悩まされ、他の地域では廃棄処分といったシロッキングなニュースなどもありました。

こうした中で、我々青年部は互いに交流を深め、情報や意見交換を活発に行い、さまざまな事業に取り組んできました。昨年新たな試みとし

て、道東のスーパーにて米の試食販売をJA職員の協力を得て実施しましたが、これをきっかけに「JAあさひかわ産」農産物をもっと多くの消費者にPRできればと考えております。今年も青年部員一丸となつてこの厳しい農業情勢を乗り越えるべく、全力で青年部活動にあたりますので組合員の皆様の暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年も災害や事故のない、明るい年となりますよう組合員の皆様のご健康とお幸せを心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



新年挨拶

女性部部長 石橋 章子

章子



明 けましておめでとうございませう。昨年は、十勝地方やオホーツク海方面では天災で大変な状況でしたが、上川地方は天候も良く稔りの秋を迎えられ、良いお正月をお過ごしのこととお慶び申し上げます。昨年の女性部全体の活動は、6月のレディースセミナーに176名が参加し、アグネス・チャンの講演を聞きしました。歌手として日本に来てからのこと、子育てのこと、仕事、母国と日本の違い等の話であつたという間に時間が過ぎました。その後、富良野方面で美術館見学組と温泉組に分かれて一日を過ごしました。12月には、温泉湯治と歌謡ショーに参加。札幌の厚生年金会館で歌謡ショーを見学後、定山溪に向かい、久しぶりに友達に会い、大いに楽しんで帰ってきました。いずれも多数の参加で、大変盛り上がった研修となりました。

農協事業としては、7月に永山に「あさがお」がオープンし、お

米の試食・販売のお手伝いをし、8月の「JAあさひかわ農業まつり」では昨年に続き、皆さまから寄付頂いた品物で「フリーマーケット」とれたてのじゃがいも・かぼちゃを蒸かして販売し、いずれも大盛況での完売でした。ご協力に深く感謝申し上げます。また、9月、10月には、地産地消をPRするクッキングフェスタのお手伝いをしました。

上部組織の参加では、全道女性部大会が11月に札幌で開催され、6名が参加しました。女性農業者の出産・育児サポート活動支援セミナーがあり、例年よりも多くのフレッシュさんが参加しました。また、12月の上川地区研修会「上川農業を考える」の講演では、WTO、FTA、EPAなど輸出入に関することや食の安全・安心確保と、消費者として関心のある講演でした。

最後になりましたが、本年も女性部活動にご理解とご協力をお願いし、新年のご挨拶といたします。

共に創る北海道農業とJAの新時代

第25回JA北海道大会開催

積極果敢な挑戦誓う

平成19年度から向こう3年間のJAグループの取り組み方針、「食と農を結ぶ活力あるJAづくり」を主題に開催された第24回JA全国大会（10月11日）に続いて、JAグループ北海道の戦略を決める第25回JA北海道大会が、11月21日、札幌市の札幌コンベンションセンターで開催された。会場には、全道からJA役員、青年部・女性部代表など約1,800人が参集した。今回の大会も前回に引き続き「実践の大会」と位置付け、「共に創る北海道農業とJAの新時代」のテーマのもとに、北海道農業の振興とJAグループ北海道の組織・事業機能強化に向けたグループ戦略を決定した。



の役員、青年部・女性部代表が参加して、新たな時代に積極果敢に挑戦することを誓った。

農業の生産基盤・活力あるJAづくりへ

大会では、「北海道農業は、担い手の多様化などの構造変化に加え、農業政策の大転換期を迎えている。WTO農業交渉や日本とオーストラリアとの自由貿易協定（FTA）交渉など国際化の名のもとに北海道農業への深刻な影響が懸念されている。特に、日豪FTA交渉は緊迫した状況で、仮に開港が撤廃されると北海道農業が壊滅的な打撃を受けることは明白である。JAグループとして

■JAグループ北海道の目指すべき方向 ～5つの基本方針～



北海道農業の生産基盤づくりに積極果敢に挑戦し、それを支える活力あるJAづくりに取り組む。」（宮田勇）JA北海道中央会会長挨拶との認識のもとに、JA運動の主人公である組合員の営農と生活の維持向上と消費者の支持と信頼の獲得に向けて、北海道農業のステップアップと活力あるJAづくりを強力に推進し、

この着実な実践に向けて、組合員並びにJAグループ北海道の役員員の英知を結集し邁進することを確認。5つの基本方針のもと、「新たな時代に向けた北海道農業のステップアップ」、「変革の波を乗り越える活力あるJAづくり」の2つの決議に加え、特別決議も審議し、それぞれが決議され閉会した。

親 の代から経営している養豚業。養豚経営だけではなかなか難しくなってきた平成元年に、養豚農家の呼びかけで仲間をつくり「TOMB」 という加工組織を立ち上げました。江丹別の加工施設を利用させてもらい、1〜2頭の豚を食肉用に加工して販売を始めました。

「やってみよう！」という意欲が強く、特に宣伝もしなかったのですが、まずは、身内、ご近所からジワジワと広まっていきましました。加工品（ソーセージなど）も始めるようになる。と、「TOMB」の名前も知られるようになり、さまざまなイベントの参加も増えました。当時、代

表として表舞台に立つことが多かった。ので「これだけ求めてくれる人があるのなら、大々的に運営していこう！」と仲間呼びかけたところ、「養豚だけで精一杯」、「そんなに手間をかけられない」と反対多数で結局、「TOMB」を解散し、昨年春に「(有)杉本ファーム」と名前を新たに始めました。

現在は、4棟の豚舎に700頭ほどの豚を飼育、夫婦と共々5〜6人でフル稼働しています。販売品もガンと増え、毎週木曜日に食肉ブロックで150kg、加工品で50kgほど（豚3〜4頭分です）製造・販売しています。ソーセージの種類は全9

品で、やはり売れ筋は「粗挽き」です。組織立ち上げ当初から変わらず受注販売がメインで、配達もしています。（もちろん、「あさがお」にも「粗挽き」ほか、いろいろと納品しています）

現在、道路の拡幅工事で豚舎が移転の危機にさらされているので、そこに30〜40坪ほどの加工場を建て、販売の他に体験施設、また、地方から来る方のための宿泊施設も兼ねて...と夢はどんどん大きくなっています。その分、建築費用も膨らんでいきますので、少しでも負担を軽くするために、自分で出来るものは手作りでやってみようかなと考えています。



★ やはり
★ 売れ筋は
★ “粗挽き”です

(有) 杉本ファーム
代表 杉本 幸司



連絡先: 旭川市西神楽2線6号
TEL 65-9303



生産から販売までこなせて、
笑いのある農家を目指す。



北原 豊さん

(神居地区)

- 1 昭和48年9月20日
- 2 父、母、妻
- 3 ドライブ、温泉、スキー、飲酒
- 4 平成9年から
- 5 メロン、イチゴ、絹さやえんどう、水稻
- 6 生産から販売までこなせる農家・笑いのある農家
- 7 堆肥を上手く利用し、安全で安定した農作物の生産をしたい。
- 8 消費者の多い都市・旭川で農作物を生産しているメリットを生かすために、消費者ニーズを的確に把握し、農家に対して情報を提供しで欲しい。

品質の良い物を作り、消費者ニーズに
対応できるよう努力する。



若栗 大輔さん

(北野地区)

- 1 昭和57年6月29日
- 2 父、母
- 3 映画鑑賞
- 4 平成13年から
- 5 水稻
- 6 目標となる経営スタイルは今のところないが、水稻中心に規模を拡大したい。
- 7 とにかく品質の良い物を作り、消費者ニーズに対応出来るよう努力したい。
- 8 今まで以上に協力し、消費者のために頑張っていきたい。
- 9 やさしい人

質問事項

- 1 生年月日 ●2 家族構成 ●3 趣味 ●4 農業開始時期 ●5 現在の農業経営スタイル ●6 目標(理想)とする経営スタイル
- 7 農業に対する抱負 ●8 農協に対する希望や要望 ●9 独身者は、理想の女性像

WTO農業交渉の基礎研究②

交渉凍結の背景
と日本の立場

理解するための基礎知識

WTO農業交渉は、昨年7月のG6閣僚会議で凍結が宣言されて以来、先行き不透明のままに時を重ねている。2004年7月の「枠組み合意」で前進が期待されながらなぜ暗礁に乗り上げてしまったのか。今回は、その背景を探るとともに、日本の主張と立場について研究してみよう。



交渉凍結の背景

WTO農業交渉のポイントは、関税削減などによって貿易の機会の拡大を図る「市場アクセス」、各国の国内の補助金などの削減を目指す「国内支持」、輸出補助金などの撤廃によってフェアな国際ルールを確立しようという3点にあることは、前回で触れた通りである。

それぞれに各国の利害が複雑に絡み合っている状態にあり、その調整が難航しているのが現状である。市場アクセス分野では、日本とEUがどの程度譲歩するのか、工業製品の関税をどうするか、国内支持では、アメリカの厳しい要求が焦点になっている。日本を含む先進輸入国グループG10は、当然、輸入品の関税引き下げはできるだけ少なくしたいと考えているのだが、アメリカは階層的関税引き下げの最も高い層で90%の削減を求め、75%の上限関税の設定を提案するなど強い姿

勢を示している。重要品目についても有力途上国グループG20と同様に有税品目の1%しか認めないと主張、G6など他のグループと大きく隔たっている。また、国内支持の分野でもアメリカは、自国の国内補助金の

日本の主張と立場

アメリカは、関税の90%引き下げと上限関税の設定を提案している。

もしアメリカの主張が通れば、日本の農業には大きな打撃になる。特に米、麦、砂糖、でん粉、乳製品など高い関税で守られている北海道農業への影響は極めて大きなものになる。日本農業が、非常に高い関税で守られているという指摘があるが、実際には、農産物の関税は、相当程度に低い水準にある。WTO上は途上国扱いの韓国の平均関税率は60%を超えており、EU19・5%、ブラジル35・3%に対して日本は11%程度に過ぎない。こうした状況を踏まえて、現在のラウンドに対する日本の第1の主張は、「多様な農業の共存が図られるような貿易ルールにすべき」としている。単に一律的な削減や撤廃でなく、世界の多様な農業に対応し、かつ輸出国と輸入国のバランスの取れたルールの構築ということである。国内支持の分野では、WTOのルールでは生産にほとんど影響を与えないとされている「緑の補

助金」は、従来どおり削減の対象外とするとしている。いずれにしても、3分野の農業交渉は、それぞれ同じ程度の削減であるべきというのが日本の主張であるが、日本とオーストラリアとの自由貿易協定（FTA）交渉にも見られるように予断を許さない状況であることに注意したい。

3分野の議論のポイント

市場アクセス
関税の引き下げ

日本：バランスのとれた関税率
アメリカ：高い削減の主張
EU：どの程度譲歩するか

国内支持
国内補助金の削減

日本：生産に影響ない「緑の補助金」
アメリカ：手厚い国内補助金に固執
EU：現在の「緑」対応に批判的

輸出交渉
輸出補助金の削減

日本：特になし
アメリカ：輸出信用
EU：輸出補助金

あさがおイベント第3弾

第一回江丹別

そば

セミナー開催

11月18日（土）、永山基幹支所2階会議室において、第一回江丹別そばセミナーを開催した。
講師に、（社）日本麺類業団体連合会会長の鶴飼良平氏をお迎えし、「上野数そば店主から見た北海道のそば」と題し、講演。約80人の受講者は熱心に耳を傾けていた。
続いて、場所を農産物直売所「あさがお」に移し、そば打ち実演会を

実施。そばを打つ鶴飼氏の周りには瞬く間に多くの人がたかりができ、一つ一つの動作を真剣に見る参加者が印象的であった。
その後、抽選で選ばれた10名にそば打ち指導も行い、参加者は名人からの直接指導に大変な喜びようであった。

13時20分

14時20分

鶴飼氏による
そば講演会

約80人の受講者は、貴重な講演に熱心に耳を傾けていました！

第1回 江丹別そばセミナー

14時30分

15時00分

大迫力！
そば打ち実演会

場所を「あさがお」に移し、大迫力のそば打ち実演！圧巻です…。

真剣に見つめる
参加者たち

滅多に見られない機会に、参加者の目は鶴飼氏の動作に釘付けです…。

15時00分

16時30分

名人直々！
そば打ち講習会

抽選で選ばれた10名になんと、鶴飼氏から直接そば打ち指導が！

直接指導に
大喜びな参加者たち

鶴飼氏の直接指導に参加者は、真剣に聞き入っていました。

JAあさひかわコンプライアンス全職員研修会並びに健康管理研修会開催

11月16日(木)と20日(月)の2回に分けて、山本組合長及び水口専務が同席のもと、全職員約300人が参加したJAあさひかわコンプライアンス全職員研修会を開催した。

社会人として欠かさないビジネスマナーの再確認とJAとしての心構え、更なるコンプライアンスの実践がテーマである。講師は農協学校の研修でコンプライアンスを学んだ職員が担当した。

また、実際の業務を想定しての研修であったので、職員の理解度も高く、今後JA職員としてあるべき姿を再認識するうえで有意義な研修となった。



支庁長から感謝状を授与「あさがお」運営協議会

12月13日(水)、上川合同庁舎大講堂においてJAあさがおひかわ農産物直売所「あさがお」運営協議会会長大原萬さんに、富樫秀文上川支庁長から地産地消運動推進功労団体として感謝状が授与された。

この表彰は、農業、商工などの



各分野で地産地消運動の推進に貢献した個人、または団体に対して送られるもので「あさがお」での取り組みが評価された。

運営協議会は、直売所開店に向けてJA女性部・加工グループ・直売グループ・野菜出荷協議会等との懇談会を重ね、出荷希望者を募り、直売所運営組織設立準備委員会を構成。そして、成功事例研究・現地視察研修をもとに設立された。その後、直売所のオープニングイベントのほか、自らが広告塔となり、地域だけでなく旭川市内及び鷹栖町の当JA区域でPR活動を続けている。

組合員懇談会を開催

12月14日(木)から12月22日(金)にかけて、組合員懇談会が9会場で開催された。

山本組合長の挨拶の後、部門別

各分野で地産地消運動の推進に貢献した個人、または団体に対して送られるもので「あさがお」での取り組みが評価された。

運営協議会は、直売所開店に向けてJA女性部・加工グループ・直売グループ・野菜出荷協議会等との懇談会を重ね、出荷希望者を募り、直売所運営組織設立準備委員会を構成。そして、成功事例研究・現地視察研修をもとに設立された。その後、直売所のオープニングイベントのほか、自らが広告塔となり、地域だけでなく旭川市内及び鷹栖町の当JA区域でPR活動を続けている。

また、地域行事や大学・農業高校、江丹別そば処「穂の香」とも連携し、料理教室・そば打ち体験などの新たな消費者との交流の場を創出し、顔の見える販売活動を展開。大規模小売店舗とは違った対面型、体験型の店づくりで、多くの固定客獲得の実現に貢献している。

による事業の決算予測を説明。続いて、次年度に向けた部門別方針及び方策について説明し、最後に次年度事業の要望等を伺った。

決算予測については、今後とも全職員が一丸となって計画達成に向け努力することを報告。また、次年度に向けた部門別方針及び方策については、経済部門で購買課の統合やセルフスタンドの新設のほか、営農販売課の青果、米についても新たな方針の説明が行われた。他部門についても、今後の具体的な取り組みが説明され、組合員のご意見、ご要望を聞いた。

今回頂いた、ご意見、ご要望は、十分検討し今後の事業運営に反映させて頂きます。



米の販売推進活動状況報告

平成18年度の作付が終了し、品種別の作付面積も確定し、米の拡販推進を目的に、4回の推進活動を実施した。

推進活動【10月19～20日】

【訪問先】釧路市、妹尾商店、こめしん
【参加者】JAあさひかわ青年部

妹尾商店では売り出し期間に、「JAあさひかわ米」のマネキンによる試食販売を行っていた。青年部員も、それぞれ2店舗に分かれて「JAあさひかわ青年部」ののぼりを立て、ティッシュを配り宣伝した。

こめしんでは、クリーン米ほしのゆめ60トンの産地指定を頂いており、今後の利用拡大をお願いした。

第5班推進活動【11月13～16日】

【訪問先】三鷹市、名古屋(ヤマトライス)、大阪(伊藤忠ライス)
【参加者】島基幹支所長、他職員1名

三鷹市は、鷹栖町と「鷹」の字がつく繋がりで交流があり、今回、米の販売拡大について三鷹市市長を通じてお願いをした。さらに、米穀商組合三役、学校給食関係者、南浦小学校校長とも面談をしてJAあさひかわ米の取り組み内容を説明し、安全・安心なお米の利用をお願いした。

ヤマトライスからは、平成18年度米について品質・食味等も良好で、指定量の増加を要望された。また、関西では透明な袋が主流であり、品質ではシラタが多い品物についてはクレームの対象となるので、特に注意しなければならないとのことであった。

伊藤忠ライスは、フジオフードの卸元である。フジオフードについては、現在600店舗ほどであるが、2007年までには、1,000店舗のオープンを目指し事業展開を進めている。また、旭川でも4店舗に増えているとのこと。北海道のお米については、品質が安定しており食味も毎年向上しているとのこと、高い評価を頂いた。

第6班推進活動【11月15日】

【訪問先】札幌市(ホテルボールスター札幌)
【参加者】大槻課長

北海道の米穀の卸を招いて、北海道のこだわり米の説明会が開催された。全道から5産地が参加し、それぞれのこだわりについてプレゼンテーションが行われる中、JAあさひかわ産の「スーパークリーン米」についての紹介をした。

推進活動【11月16～19日】

【訪問先】釧路市
【参加者】稲作連絡協議会役員5名、女性部2名、大懸考査役

旭川米生産流通協議会の米消費拡大PR事業は、旭川米の評価を定着させ、旭川地区の消費拡大を図ることを目的として実施された。釧路地区を含めた道東地区は、米の非生産地であり、道産米の消費率が低い地域でもあることから潜在的な需要が見込まれる地域ともされている。

2班体制で、釧路地区消費者団体、米穀店及び漁協と旭川地区生産者等の意見交換会の開催、さらに、釧路地区業界団体等への旭川地区米の使用促進PR物産イベント「釧路まるかじり」での旭川地区米の試食販売、PR活動を行ってきた。



青年部ニュース

●JA役員との懇談会開催

12月1日(金)、午後3時より旭川中央基幹支所3階会議室において、青年部と役員との懇談会が開催された。例年、冬期間の開催で、農協の運営等に関して意見や質問をJA役員に直接話せることもあって、今年も多数の青年部員が出席した。農協事業報告の後、様々な意見と農協役員への回答が交わされ、あつという間に閉会の時間となった。

懇談会終了後は、同会場で引き続き懇親会を開催。お酒と料理を囲みながら、懇談会で聞けなかったことを聞くなど、自由に意見を出し合い、来年度に向けての意気込みを新たにして今年の懇談会を終了した。



旭正

日頃の疲れを癒し来年度へ英気

旭正生産組織連絡協議会が秋作業反省会

12月1日（金）から1泊2日の日程で、旭正生産組織連絡協議会所属の各生産組合が会員19名の参加のもと、天人峡のしきしま荘で秋作業終了に伴う反省会を行った。品目横断的経営安定対策についての加入内容、平成18年産米の出荷状況等についての研修後、懇親会を開催した。30年を超える歴史を持つ忠別1利用組合が、来年度の総会をもって解散することもあり、会員たちは長年の功績をねぎらった。日頃の疲れを癒し、来年度への英気を養い反省会を終了した。



▲懇親会では日頃の疲れを癒し、来年度への英気を養った

北野

今年も手作り料理で交流

北野支所女性部・加工部合同で忘年会開く

▲今回も手作り料理で忘年会

12月4日（月）、料理を通じ、部員間交流を目的として毎年開催されている「忘年会」が北野基幹支所で開催された。今回は、クッキングフェスタのレシピと加工部のオリジナルレシピなど全5品の料理づくり。朝9時、部員28名が集まり、

グループに分かれて準備と調理を開始。さすが主婦の手際の良さでチームワークで、予定より早い時間に料理が出来上がった。島基幹支所長、小滝営農センタ―長を招き、楽しい語りとお腹いっぱい料理で大変満足な忘年会となった。

▼料理を試食しながら、ステファニア先生と楽しい意見交換



永山

ハンガリー料理に挑戦

永山支所女性部で料理講習会開催

12月2日（土）、永山支所女性部では、ハンガリー出身ステファニア先生を講師に迎え、永山地区で栽培した野菜を使用したハンガリー料理に挑戦した。今年初めての料理講習会ということもあり、板橋部長をはじめ23人の部員が参加した。まず、板橋部長の挨拶、ステファニア先生の紹介、料理内容の説明の後、4つのテーブルに分かれて調理を開始。はじめはハンガリー料理ということに不安もあったが、時間とともに料理の過程をしっかりと把握し、5種の料理を見事に完成させた。昼には出来上がった料理をみんなで試食しながらステファニア先生と意見交換を行い、ハンガリーの伝統的な刺繍作品などに驚嘆していた。「来年も開きたいね」という声とともに有意義な1日を終えた。

日頃の主婦の手早さ披露

旭川中央支所女性部が料理講習会を開催

11月27日（月）、旭川中央支所女性部はときわ市民ホールで、料理講習会を開催した。部員17名が午前9時に集合し、5班に分かれてクッキングフェスタのレシピ、「鮭飯」、「鶏肉の柔らか煮」のほか、自分たちで考えた「エビすり身入り吸い物」、「柿とリンゴとキウイのヨーグルト和え」の計4品の料理を作った。お互い声を掛け

合いながら、レシピと勘を頼りに、時には隣のテーブルの分まで作らないうちうちの熱の入りのよう。常日頃から台所に立っている時間が一番長い主婦だけあって、10時半にはご飯を蒸らすだけになってしまった。「少し早いんじゃないかい？」とお茶を飲みながら一服。波能部長の楽しいお話（視察報告など）を聞いている間に良い感じの焦げ目のついたご飯も炊きあがり、鶏肉もおいしそうに仕上がった。家庭でも簡単にできるメニューだったので、「家で作ろう」、「また来年もやろうね」と部員たちは口々に約束を交して料理講習会は終了した。

合いながら、レシピと勘を頼りに、時には隣のテーブルの分まで作らないうちうちの熱の入りのよう。常日頃から台所に立っている時間が一番長い主婦だけあって、10時半にはご飯を蒸らすだけになってしまった。「少し早いんじゃないかい？」とお茶を飲みながら一服。波能部長の楽しいお話（視察報告など）を聞いている間に良い感じの焦げ目のついたご飯も炊きあがり、鶏肉もおいしそうに仕上がった。家庭でも簡単にできるメニューだったので、「家で作ろう」、「また来年もやろうね」と部員たちは口々に約束を交して料理講習会は終了した。



▼ソーセージの形に成形するのは、至難の業…？

神居

ソーセージづくり
って難しい？神居支所女性部が
生活講座に参加

10月22日（日）、神居支所女性部の年間行事の一環となっている「生活講座」が、12名の部員の参加のもと、江丹別若者センターで行われた。本年度の生活講座は、料理講習会ということもあり、板橋部長をはじめ23人の部員が参加した。まず、板橋部長の挨拶、ステファニア先生の紹介、料理内容の説明の後、4つのテーブルに分かれて調理を開始。はじめはハンガリー料理ということに不安もあったが、時間とともに料理の過程をしっかりと把握し、5種の料理を見事に完成させた。昼には出来上がった料理をみんなで試食しながらステファニア先生と意見交換を行い、ハンガリーの伝統的な刺繍作品などに驚嘆していた。「来年も開きたいね」という声とともに有意義な1日を終えた。

習が取り上げられ、ソーセージ作りを体験した。材料をねじってソーセージの形にする作業が難しかったようだが、燻製した出来上がりを見ると、疲れも吹き飛んだようだった。そして昼には、自分たちで打ったそばと江丹別地区の部員さんからの差し入れのおにぎりで楽しく食事した。その後、「富原自然の森」のどんぐり館で、可愛いふくろうの置物作りをして部員交流の場を満喫しているようであった。



中央



▲お互い声を掛け合いながら、見事な連携プレー！

JAあさひかわ トラベルプラン旅行記

今年よりスタートしたJAあさひかわトラベルプラン。今回は、海外旅行と道内旅行を企画しました。その時の満喫した観光の様子をご紹介します！

その1 世界有数のリゾート、ゴールドコーストとシドニーを巡る7日間 11月16日(木)～22日(水) 団長に長勢常務、組合員の方々など参加者46名

1日目

11月16日(木)、小雪のちらつく中、豊岡支所、神居支所をそれぞれ9時にバス2台で出発。一路、新千歳空港に向かい国内線にて成田空港に到着。出国手続きの後、カンタス航空でシドニーへ…。



2日目

7時55分、シドニー空港に到着。入国手続きのあと、市内観光へ。シドニーは一行を歓迎するかの様に快晴で、早速、オペラハウスとハーバーブリッジの観光を開始。青いシドニー湾にぽっかりと浮かぶように建つアーチ型のハーバーブリッジに、一同、大感激。夕食は、ショーボードディナークルーズを楽しみ、夜景、踊り、料理とワインに満足し、オーストラリアの夜は11時迄続いた。



3日目

雲ひとつない青空の下、世界遺産のブルーマウンテンズを終日観光。ユーカリ林に覆われた山々、奇岩から形成されたジャミソン渓谷の切り立った断崖絶壁をトロロコ電車により一気に下り、谷底を見学。大自然の雄大なパノラマを満喫した。



4日目

国内線にて空路シドニーからブリスベンへ移動。ギネスブックに認定されているローンパインコアラ保護区を見学。ここで一行はコアラの抱っこ写真を撮り、大感激。その後、この保護区内の多くの動物(カンガルー、デビル、ウォンバット)等に出会い、マウントクーサー展望台を見学した。



5日目

ゴールドコースト2日目。本日も青空の下、カランビン自然保護区で美しい七色の鳥レインボーロリキートに囲まれての餌付け体験をする。餌付けにより、野生のレインボーロリキートが手・頭に止まって、一同大満足。次に、海をテーマにしたアミューズメントパークシーワールドを見学。イルカの大ジャンプショーやオーストラリア中の有名水上スキー選手が披露するインターナショナルスキーショーは迫力抜群。一同、拍手喝采で大満足し、自由時間には各自アトラクションを楽しんだ。



6・7日目

6時、ホテルロビーに集合。陽光が降り注ぐ中、約20人で世界的ビーチ・リゾートの美しい海岸線の砂の上を歩き、海水につかり大満足。その後、午前中自由行動で各自、買い物等を楽しむ。この後、国内線でシドニーに戻り、出国手続きの後、カンタス航空にて日本へ向けて出発。成田空港一羽田空港一旭川空港と移動し、翌日14時に、温暖な地域から雪のちらつく旭川に無事到着した。温かい異国の景色、料理や特産のワインを楽しみ、46名の参加者一同は大満足で帰路に着いた。



その2 温泉湯治と歌謡ショー 12月5日(火)～7日(木) 山本組合長のもと参加者169名

1日目

旭川を12時に出発し、バスで札幌厚生年金会館に直行。伍代夏子、香西かおりや香田晋など5名の演歌歌手が登場し、会場は大盛り上がり！特に、香田晋のパフォーマンスに会場は笑いの渦につつまれた。楽しさのあまり、30分オーバーした歌謡ショーの後は、定山溪万世閣ホテルミリオネに場所を移し、大宴会。宴会ではカラオケや、ダンス、さらにお酒を飲む人など、それぞれが自由な時間を楽しんだ。



2・3日目

翌日は、自由行動。温泉、マッサージやエステで日頃の体の疲れを癒す者、外に出て景色を楽しむもの、また、昨晚に続きカラオケを楽しむ者など、それぞれが楽しいひと時を過ごした。

JAあさひかわとして初めての温泉湯治を5基幹支所合同で開催し、初めて顔を合わせる参加者も多いなか、それぞれが楽しい時間を過ごし、無事帰路に着いた。

終わりに

初めての企画にかかわらず多くの参加をいただきありがとうございます。来年も皆さまのニーズに合った新たな企画を、金融窓口及び広報誌やコミュニティ紙においてご提案させていただきます。今後とも旅行センターをよろしくお願いいたします。

第14回理事会

●協議事項

1. 平成18年度9月末に於ける事業実績(子会社含む)および仮決算(子会社含む)の状況について
2. 監事による中間監査の回答について
3. 大口貸付について
4. ディスクローチャー誌(半期開示)について
5. 出資の減口について
6. 規程類の一部変更について

●報告事項

1. 地区内営農状況について
2. 内部監査の実施報告について
3. 経営管理点検の結果について
4. 共済事業にかかるコンプライアンス点検の結果について
5. 農家経営対策の取組みについて
6. 要改善JAの指定に係る9月分再発防止策への取組み状況について
7. JA全国監査機構による財務諸表等監査(期中監査)について
8. 要領の制定及び廃止について
9. 有価証券の取得について
10. 人事異動について
11. 今後の日程について

第15回理事会

●協議事項

1. 平成18年度10月末に於ける事業実績(子会社含む)および仮決算(子会社含む)の状況について
2. セルフスタンドの新設について
3. JA生産資材配送センターの新設、生産資材店舗・野菜予冷庫施設の統合について
4. 組合員懇談会の開催について
5. 大口貸付について
6. 規程類の制定及び一部変更について
7. 年末手当の支給について

●報告事項

1. 地区内営農状況について
2. 内部監査の実施報告について
3. 監事に対するクミカン貸越限度額の設定について
4. JAバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項の報告」について
5. 要領の制定について
6. 要改善JAの指定に係る10月分再発防止策への取組み状況について
7. 有価証券の取得について
8. 年末年始の営業時間について

職員人事

■退職 ————— お世話になりました

12/31 推進役 荒川 明 北部金融支所貯金共済課長
12/31 係 吉光 林咲 神居金融支所融資相談課係

謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。
おくやみ

10/10 千代 ミツさん 永山地区15区西
10/13 小宮谷 昇さん 神居地区神居古澤
10/18 後藤 新一さん 北野地区2区
10/22 森 清吉さん 旭正地区旭正5
10/23 服部 一夫さん 旭正地区千代田5の1
10/24 一條 作男さん 永山地区13区4・6
11/ 4 石坂 重春さん 旭正地区共栄1
11/21 上桑 松雄さん 神居地区雨舂・本町(元役員)
11/24 水上 真一さん 旭正地区忠別1
(ともに正組合員)

JAあさひかわ

概要

(平成18年11月末実績)		
正組合員	2,704名	
組合員数	24,295名	
合計	26,999名	
出資金残高	1,920百万円	
販売取扱高	4,281百万円	
生産資材供給高	1,526百万円	
給油所供給高	1,461百万円	
生活供給高	381百万円	
貯金残高	91,872百万円	
融資残高	19,992百万円	
長期共済保有高	2,282億円	